



平成26年度 協会研修の 取組みについて

情報通信エンジニアリング協会 研修部

1. はじめに

平成26年度の協会研修については、会員各社の皆様の要望等を取り入れ内容を一層充実させ4月より開始しています。以下、本年度の研修への取組みにつきまして紹介します。

2. 研修の方針

今年度の研修方針は、昨年度の方針を継続し、4つの大きな柱を掲げています(図1)。

(1) 安全・品質に関する対応

安全に関しては、協会として先導的に取り組むテーマとして掲げ、より一層の内容の充実化を図っています。

(2) 保守・運用業務の拡大

建設系の業務から、保守・運用系への業務の広がりを見据え、これらの技術・スキル習得に必要な研修メニューを増やしました。

(3) 新サービス・希少技術継承への対応

Wi-Fiサービス等をはじめとした新サービスの内容盛り込みの他、レガシー技術等の技術の継承に力をいれてきています。

(4) その他

工事担任者資格に加え電気工事士資格等の公的資格の取得、インターンシップ研修のさらなる充実、グローバル時代への対応、技能五輪に向けたスキルアップの支援等を積極的に実施していきます。

以下、各々詳しく紹介します。

3. 研修の具体的取組み

3-1. 安全・品質に関する対応

危険体感安全研修については、東

日本研修センター(以下、東研修Cと表記)に加え、昨年度から西日本研修センター(以下、西研修Cと表記)でも開始し、項目のリニューアルを実施し、より安全意識の向上に役立つような内容にしています。

また、工事長レベルへの安全意識向上を図るため、東研修Cでは既存の主任技術者研修に安全衛生法の理解を深める内容を追加し、西研修Cでは昨年度始めた現場代理人向けのマネジメント研修の内容を一層充実させています。

さらに、人為ミスを防ぐための「2Wayコミュニケーション研修」や、人間がエラーを実施するメカニズムを理解しミスを減らすことを狙った「ヒューマンエラー対策」等の研修も実施しています。

3-2. 保守・運用業務の拡大への対応

保守・運用業務への対応が急がれることから、新しい科班のタイム

リーな開始を進めています。東研修Cでは、一元的保守エリアの拡大等を見据え、昨年度に「訪問サポート」「RSBM保守」「社外折衝」「OPTOS操作」「設備点検」等10科班をパイロットで立ち上げましたが、今年度本格実施に移行していきます。さらに新たに「光故障切り分け」も追加し、よりラインアップを充実させます。また、西研修Cでは、アクセス保守協業に向けた計画的な技術者育成の確実な実施や宅内保守協業のフィールドトライアルも見据えた現場実態に即したCS研修、各種スキル修得研修、工事担任者、電気工事士資格取得研修等に力を入れていきます。

また、東研修C・西研修Cともに、NTT東日本様・NTT西日本様の研修センターとの連携も実施し、より実態に即した環境での研修が実施できるよう対応しています。

平成26年度の協会研修は、平成25年度の方針を継続し、安全・品質に対するより厳しい要求、保守・運用業務の拡大、および新サービス・希少技術継承等の期待に応えていけるよう、対応していく。

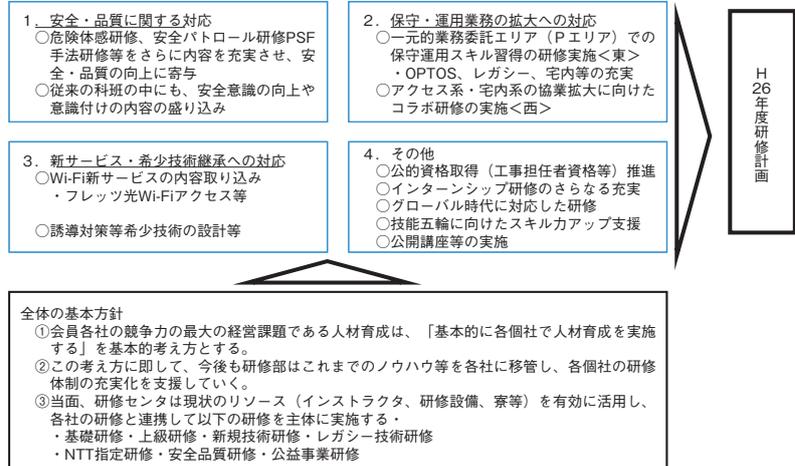


図1 平成26年度の研修方針

表1 公的資格取得の推進

資格	まわりの状況	協会としての対応	
		平成25年度	平成26年度
工事担任者資格	○総務省ホームページにおいて、法律を遵守するよう「工事担任者制度の周知、適切な運用、関連法令遵守、工事担任者資格制度」に関する記述が更新された。 <参考> ・工事担任者：5月と11月、通信教育のeLPIT 工事担任者受験数 年約4.9万人（対前年約▲5%）	○資格者を増やす施策 ・直前対策研修（春に加え秋も実施） ・eLPIT受講の推進	○施策を継続 ・eLPITのメリット等を機会をみて周知
電気工事士資格	○所内工事だけでなく宅内系の新たなビジネスチャンスへの対応として、当業界としても資格取得拡大に取り組むこととする。 (1) スマートメータの設置加速 (2) HEMS（ヘムス）：Home Energy Management System <参考> ・電気工事士： 2種 6月筆記+7月技能、10月筆記+12月技能（年1回どちらか選択） 1種 10月筆記+12月技能 電気工事士受験数 年約19.5万人（対前年約+5%）	○主に所内工事担当者を対象に以下の研修を実施 ・電気工事士受験対策科	○所内だけでなく、所外の担当者にも資格取得拡大を推奨。 ○技術者数のH26年度実態調査

3-3. 新サービス・希少技術継承への対応

技術者の世代交代等を見据え、レガシー技術のスキル継承が大きなポイントとなっています。それに向けて、ガス保守の研修を1昨年度から開始し、今年度も多くの方に受講していただく予定です。また、メタリックケーブル（スタルペスケーブル含む）や誘導対策についても、新たな技術者を育成できるよう、研修メニューを用意し、次の世代にスキルを継承できるよう進めていきます。

また、大規模災害、宅内系の配管困難箇所の施工技術、ガス漏洩補修等の内容についても、新たな情報や技術を取り込み、内容の充実を図っていきます。

3-4. そのほか

(1) 公的資格取得の推進

工事担任者資格については、従来より資格取得を推進しているところですが（表1）、今年度も年2回の国家試験（5月、11月）に対応した直前対策研修の実施のほかに、合格率が比較的高いeLPITについて認知度が低いことから、積極的にeLPITの内容をいろいろな場でお伝えし、受講の機会を増やしていくよう対応していきます。

*HEMS=Home Energy Management System

また、宅内系の新たなビジネスチャンス（例：スマートメータの設置加速、HEMS*事業の拡大等）への対応として、従来の所内の電力工事従事者に加え、所外系の方にも電気工事士資格の取得推奨を開始しています。

(2) インターンシップの推進

インターンシップ研修については、昨年度新たに5校（芝浦工業大学、千葉工業大学、中央大学、東京都立大学、日本大学）が参加し、全参加校16校・33名の参加となりました。今年度も新しい学校の生徒に来ていただけるよう大学へのアプローチを積極的に行い、実りあるインターンシップを実施する予定です。

(3) ASEAN諸国への技術移転

厚生労働省主管のASEAN諸国への技能評価システム移転事業（表2）に関しては、2012年度より中央能力開発協会(JAVADA)からの要

請に基づき「情報配線施工」への協力を実施していますが、昨年度は、5か国（そのうちの1国はきんでん社が対応）実施しました。ASEAN各国への支援は試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。言葉の壁もありトラブルも多数発生しましたが、各国の技術力が着実に向上し、移転事業の定着も大きく進展していることが直接確認できたことから、大きな成果を残すことができました。今年度も要請があれば積極的に対応していく予定です。

5. おわりに

平成26年度につきましても、会員会社の皆様に喜んでいただけるよう、会員会社様の協力を得ながらより良い研修を実施していきたいと考えております。今年度もよろしくお願いたします。

表2 ASEAN諸国への技術移転

平成24年度 (初年度)	○アジア発展途上国からの研修生の受け入れ 7カ国<タイ、マレーシア、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピン、インドネシア> 20名 H24.9/24-10/3 東日本研修センター ○各国での技能評価トライアル実施のための技術指導員の派遣 6カ国<タイ、マレーシア、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピン> ITEA職員（武田、上村、戸田）が対応 H24.12-H25.3 ※インドネシアについては、エクシオ社が個別対応
平成25年度	○評価者研修、技能評価トライアル、デモ実施のための技術指導員の派遣 5カ国<タイ、マレーシア、ベトナム、ラオス、カンボジア> ・タイ：ミライトテクノロジーズ 岩井様 ・マレーシア：協和エクシオ 佐川様、森野様 ・ラオス：ITEA上村、TTK三浦様 ・カンボジア：ITEA戸田、NDS野末様 ※ベトナムは今回きんでん社が対応
平成26年度	○要請があれば対応予定